

さらめき

No. 72



R6. 1. 26 有川大神宮にて北斗消防署による放水訓練

「貴重な文化財を火災から守ろう！」

～第70回文化財防火デー～

～昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺の金堂が炎上し、内部の壁画が焼損したことを受け、同日が「文化財防火デー」として制定されました。～

人と、未来と、ほくと。



令和5年度 北斗市立小・中学校

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をお知らせします

この調査は、全国の児童生徒の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等の状況を把握・分析し、児童生徒の体力向上を図ることを目的として、小学校5年生と中学校2年生を対象に実施しています。

北斗市では、小学校5年生男子181名、女子193名、中学校2年生男子170名、女子160名を対象に調査を行いました。

なお、本調査の結果については、体力・運動能力要素の一部を示しているものとご理解ください。

北斗市教育委員会

【調査項目】

I 児童生徒に対する調査

① 実技に関する調査

小学生は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ソフトボール投げの8種目で実技調査を行いました。中学生は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500メートル、女子1000メートル）又は20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ハンドボール投げの8種目で実技調査を行いました。

② 質問紙調査

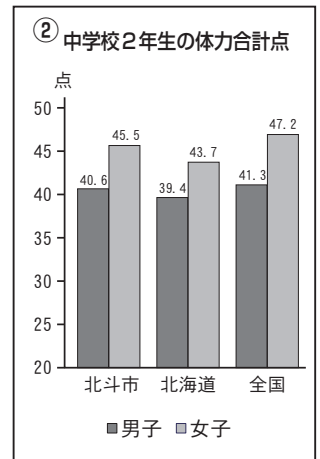
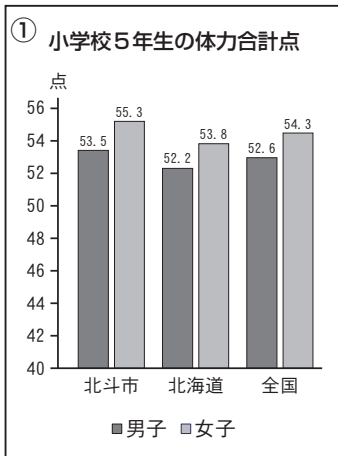
運動習慣、生活習慣など。

II 学校に対する質問紙調査

児童生徒の体力・運動能力向上に係る学校の取組など。

【体力合計点】（グラフ①・②）

体力合計点は、実技調査項目における得点の合計です。小学5年生の男子と女子は、ともに全国・全道平均を上回りました。



中学2年生の男子と女子は、ともに全道平均を上回りましたが、全国平均を下回りました。

【小学校】

○ 実技調査の結果（グラフ③・④）

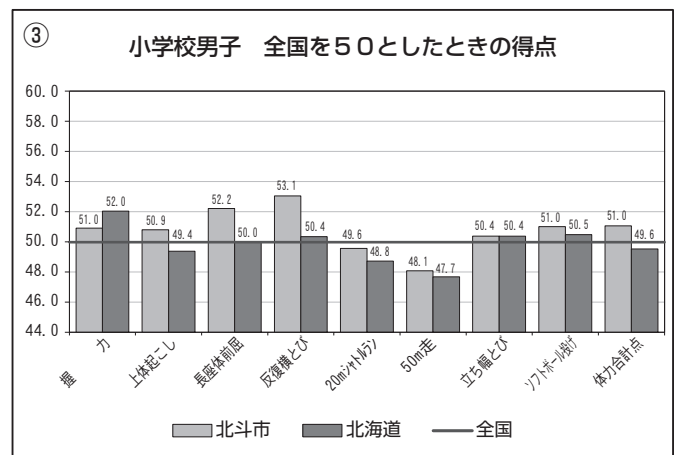
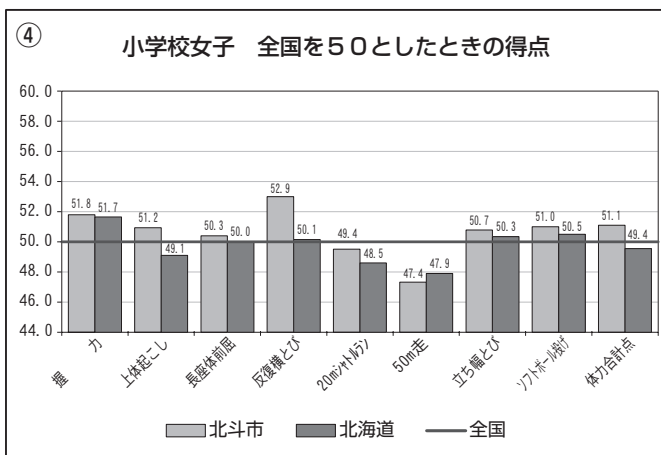
小学5年生男子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅とび・ソフトボール投げの6種目で全国平均を上回りました。小学5年生女子も、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅とび・ソフトボール投げの6種目で全国平均を上回りました。

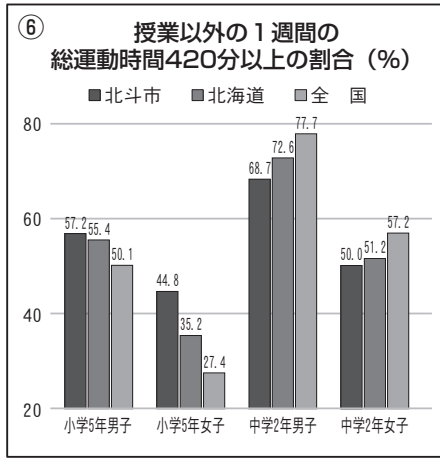
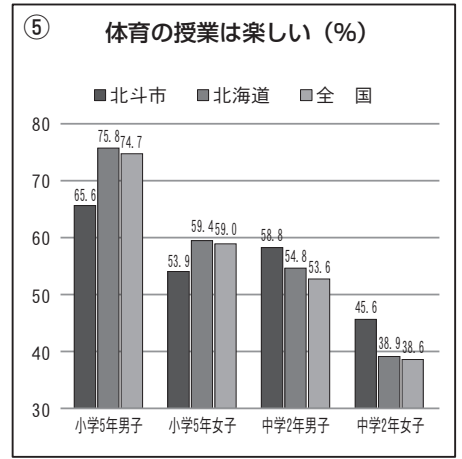
また、小学5年生の男子と女子は、ともに20メートルシャトルラン・50メートル走で全国平均を下回りました。

○ 児童質問紙から（グラフ⑤・⑥）

「体育の授業は楽しい」と回答した児童の割合は、男女ともに全国・全道を下回りました。

また、「体育の授業以外の1週間の総運動時間が420分以上」（1日あたり1時間以上）と回答した児童の割合は、男女ともに全国・全道を上回りました。

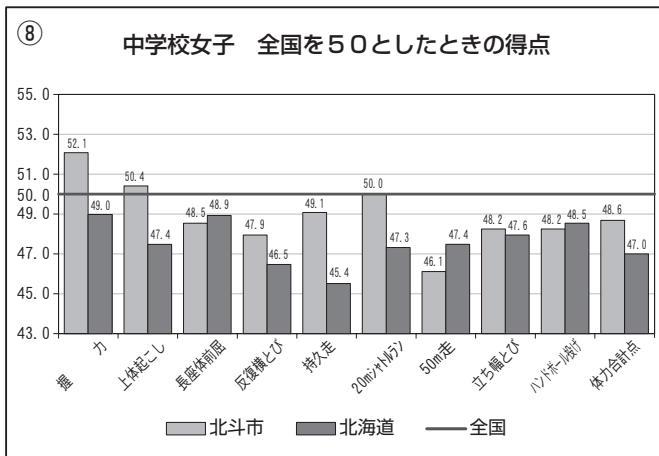
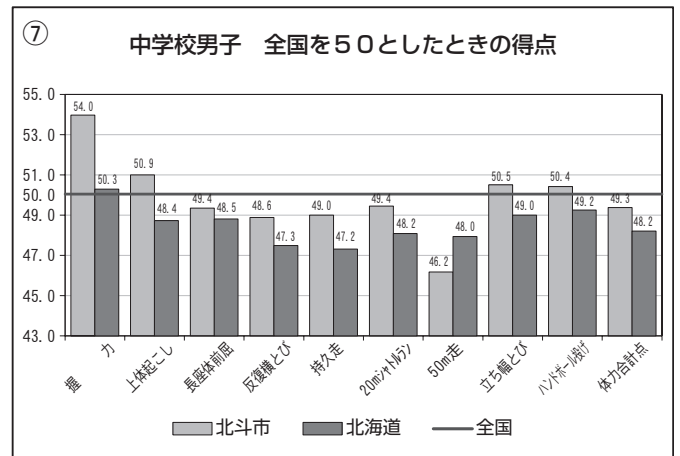




○実技調査の結果(グラフ⑦・⑧)

【中学校】
 中学2年生男子は、握力・上体起こし・立ち幅とび・ハンドボール投げの4種目で全国平均を上回りました。中学2年生女子は、握力・上体起こしの2種目で全国平均を上回りました。

また、中学2年生の男女ともに、50メートル走で、全国・全道平均を下回りました。



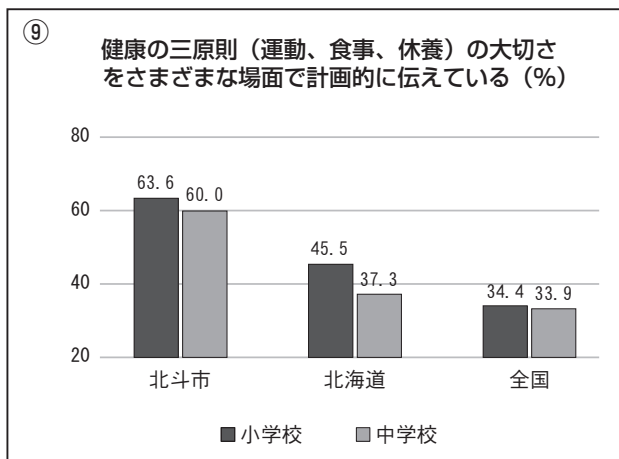
○生徒質問紙から(グラフ⑤・⑥)

「体育の授業は楽しい」と回答した生徒の割合は、男女ともに全国・全道を上回りました。

また、「体育の授業以外の総運動時間が420分以上」(1日あたり1時間以上)と回答した生徒の割合は、男女ともに全国・全道を下回りました。

【学校質問紙】(グラフ⑨)

「健康の三原則(運動、食事・栄養、休養・睡眠)の大切さをさまざまな場面で計画的に伝えている」と回答した学校の割合は、小学校も中学校も全国・全道を大きく上回りました。



○児童生徒が自己の体力の状況を把握し、

【学校の体力・運動能力向上策】

目標をもって体力づくりに取り組めるよう、市内小・中学校の全ての学校の全学年で新体力テストを実施しています。

○体育の授業で、授業の始めに目標を示し、話し合いや助け合う活動を行ったり、ICTを活用するなどして、学習内容を振り返る活動を取り入れています。

○調査結果から課題となった実技種目を体育の授業の準備運動(ランニング・なわとび・サーキットトレーニングなど)やストレッチ運動に取り入れています。

○ニュースポーツ(モルックなど)やリズムダンスなど、友達同士で運動する楽しさを味わわせるとともに、体力向上につながるために、校内の体育的行事の内容を工夫したり、ラジオ体操コンクール、スポーツの集い、マラソン大会、駅伝大会、ドッジボール大会、スノーフェスティバルなどの市の行事へ参加を促しています。

○児童生徒の健康増進や望ましい生活習慣・食習慣を目指して、家庭・地域と連携しながら「早寝・早起き・朝ご飯」運動やノーゲームデー、メディアの使用制限週間、徒歩通学の推奨などを行っています。

【お知らせ】

北斗市内小・中学校の調査結果の状況や体力・運動能力の向上策については、北海道教育委員会ホームページにも掲載されております。

(教育委員会 指導室)

心身ともに健康で

豊かな生活を目指して

久根別小学校

久根別小学校では、毎年体力向上に向けてさまざまな活動を行っています。特に、マラソン月間・なわとび月間をはじめ、さまざまな工夫を凝らした体育の授業など、児童が楽しく運動できる環境づくりに取り組んでいます。

今年度の体力テストは、全国平均を大きく上回る結果となり、楽しく運動できる環境づくりが、児童一人一人の体力向上につながっています。自ら進んで運動する姿は身の回りだけではなく、学校全体の良い雰囲気作りにもつながっています。

マラソン月間

マラソン月間では、1周400mのコースを期間内にどれだけ走ることができたかを記録することで、友達や前回の自分の記録を超えようと、切磋琢磨する姿が見られました。

記録に応じた賞状を目指して、それぞれの目標に向かって取り組むことができました。

授業の時間だけでなく、休み時間も

グラウンドへ走りに行く児童が日に日に増え、積極的に運動に取り組む姿が多く見られるようになりました。



～マラソン月間（1年生）～

なわとび月間

なわとび月間では、なわとび大会に向けてさまざまな跳び方で何回跳べたかを記録する個人種目と、クラスを2グループに分けて行う大縄跳びの団体種目に取り組んでいます。

マラソン月間と違い、自分との闘いだけでなく、クラス対抗の活動もあるた

め、周りを気遣ったり、鼓舞したりする姿にそれぞれの成長を感じました。



～なわとび大会（3年生）～

工夫した体育授業

本校では、苦手意識を持った児童でも段階を踏んで上達できるように、そして児童が楽しく体を動かすことができるように、さまざまな工夫を凝らした体育の授業を実施しています。

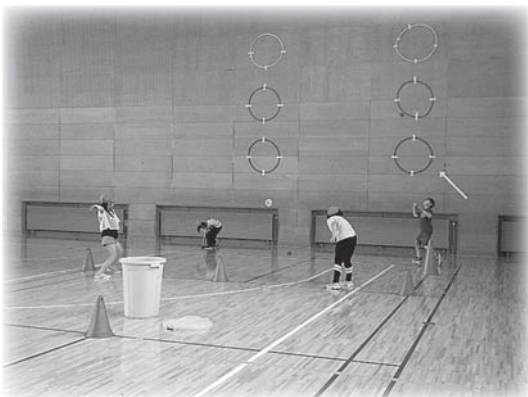
低学年のマット遊びや跳び箱遊びは、配置や場の設定を工夫した「忍者の修行」として実施しています。「投げる力」をつけるためには、体育館の壁に貼り付けたフラフープを的にして取り組んでいます。

また、マラソン月間の体育の授業では、コースにハイタッチ区間を設けて、走る

ことが苦手な児童も笑顔で走れるような場を設定しています。指導の中で、自然と笑顔があふれる場面が多くあることも、全校の体力向上につながっています。



～場を工夫した忍者（跳び箱）遊び（2年生）～



～体づくり運動「投げる」（5年生）～

（久根別小学校 教諭 生田 遼河）

いじめをなくす『絆プロジェクト』

上磯中学校

上磯中学校では、いじめをなくす取組として、生徒会書記局を中心に「絆プロジェクト」を実施しています。

昨年度までは、学校祭のステージ発表の中で、実行委員が劇を通じていじめ撲滅を訴える活動が中心でしたが、今年度からは、1年間を通じて取り組む活動にリニューアルして実施しています。

取組は、年度初めに生徒会書記局から全校放送で「絆プロジェクトの始動」を宣言するとともに、生徒指導担当からの活動の意義について説明を行うことから始まりました。生徒は、この「絆プロジェクト」の趣旨を踏まえ、各学級において年間を通じて取り組む内容について話し合いを行いました。

「絆プロジェクト」の始動を受けて、全校生徒にスローガンを募集しました。今年度のスローガンは「無関係 それ単なる 逃げ文句」です。

また、全校生徒で絆づくりメッセージを考え、各学級で交流し、各学級から出された案をもとにして上磯中学校のメッセージを考え、絆づくりメッセージコンクールに応募する取組も行いました。

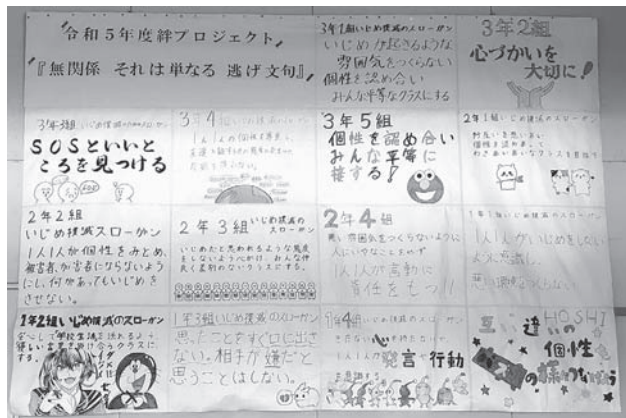


絆プロジェクト話し合いの様子

1学期にはリーダー研修を行い、各学級の委員長、副委員長が中心となって、各学級のいじめ撲滅宣言を決定し、校内に掲示しました。

2学期には縦割りでの話し合い活動が行われ、各学級のいじめ撲滅宣言や意見の交流が行われました。リーダー研修を受けた各学級のリーダーたちが自分たちの力で司会進行、サポーター役を務め、とても良い雰囲気の中で話し合いが行われていました。

3学期には1年間の取組のまとめとして、道徳の授業を通してさらにいじめ撲滅について深く考えていきます。



各学級のいじめ撲滅宣言

上中生、頑張っています。

先日行われた北斗市功労者表彰で、上磯中学校からも国や、道から表彰を受けた生徒、各種競技や大会で優秀な成績を収めた生徒が受賞しました。

表彰式では、緊張した面持ちで盾やトロフィーを受け取っていました。

部活動や好きなことに熱中し、努力を重ねる上中生、これからもたくさん分野で活躍して欲しいです。



表彰式の様子



北海道英語暗唱大会

(上磯中学校 教諭 吉澤 優子)

- 第59回北海道管楽器個人コンテスト中学生の部 金賞 藤澤拓杜さん
- 第25回北海道ジュニア陸上競技選手権大会兼第54回U16陸上競技大会北海道予選会男子U16 110mH 全道優勝 中谷瑠香さん
- 2023北海道中学軟式野球U14フレッシュゲームス兼くまのベースポールフェスタ第1回中学軟式Winter Cup北海道予選全道優勝 奈良拓海さん、小野蓮太さん、木村鳳煌さん、本保陽仁さん、安宅晴豊さん
- 第29回日本管楽合奏コンテスト中学校B部門 優秀賞 吹奏楽部の皆さん
- 第76回全日本合唱コンクール全国大会中学校・高等学校部門 中学校部門混声合唱の部 銀賞 合唱部の皆さん
- 第43回全道中学校英語暗唱大会 全道1位 粉山りみさん

学びを共有する利点を生かして

北斗高等支援学校

北斗高等支援学校は、上磯高等学校と校舎を共にする特別支援学校です。普通高校と特別支援学校が同じ校舎で学ぶ環境の利点を生かし、年間を通して幾つかの交流と共同学習を進めています。

対面式（生徒会企画）

毎年4月、新入生を歓迎するとともに、高校生活を知ってもらおうと、両校生徒会役員が企画し、対面式を実施しています。

真新しい制服に身を包んだ新入生が入場した後、両校の校歌が紹介され、生徒会制作の「学校生活紹介ムービー」が上映されます。緊張する新入生を和ませようと奮闘する両校生徒会役員の姿が頼もしく感じられる、春の恒例行事となっています。

清溪祭（生徒会&学科・学年企画）

毎年7月、両校合同で実施する学校祭は「清溪祭」という名称で親しまれています。2日間の日程で行われ、初日の前半は、生徒会企画のクイズ大会等を楽しみます。令和5年度は、北斗高等支援学



校の生徒が優勝するなどして大いに盛り上がりました。この日のために、両校生徒会役員が話し合いを重ねながら準備を進めています。みんなが楽しむことのできる内容を企画する中で、互いの学校の生徒を理解し合う機会になっています。初日の後半は、各学年のステージ発表が行われ、両校生徒の持ち味が発揮された出し物に、互いに大きな拍手を送り合います。

一般公開される2日目は、学科や学年で企画した模擬店や作品展示などが行われます。北斗高等支援学校の生徒は、環境・流通サポート科と福祉サービス科に分かれ、実習でお世話になっている企業や事業所の物品販売を行います。上磯高校の生徒・教職員をはじめ、地域の方々にも来校いただくなど、多くの人と触れ合う貴重な機会になっています。

福祉実習（見学と体験による交流学习）

昨年度から、北斗高等支援学校の福祉サービス科の実習を上磯高校の生徒が見学・体験する交流学习が始まりました。

上磯高校の選択教科の中に、「福祉」に関する科目が開設されることがきっかけで始まった取組です。令和5年度は、1・2年生を対象に実施しました。

1年生を対象に行ったのは、福祉実習の見学と体験です。見学では、地域の企業や公共施設で行うデュアル実習の様子を参観し、体験では、介護に関する実技を行いました。実技体験では、普段行っている福祉実習の様子を紹介した後、上磯高校の生徒たちに包布交換とシーツ交換の体験してもらいました。北斗高等支援学校の生徒たちは、わかりやすいように伝えようと、実演を交えながら上磯高校の生徒たちの体験をサポートしました。



2年生を対象に行ったのは、実際の高齢者施設で行う実技体験です。1年生時の交流学习で、「福祉」に興味を持った上磯高校の生徒が、北斗高等支援学校の実習現場に同行し、体験する取組です。1年生で体験した包布交換の技術を生かし、北斗市にある特別養護老人ホームにおいて、入所者の布団カバーの交換を、両校生徒で息を合わせながら協力して行いました。

合同体育（テニール）

令和5年度は、北斗と上磯の両校2年生の生徒が一緒にテニールを行う合同体育を実施しました。テニールは、年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめるニュースポーツで、両校の体育で学習してきました。今回は、北斗・上磯混合チームを編成し、交流を兼ねて練習と試合を行いました。互いのプレーをたたえ合う交流ムードが漂う中、珍プレー・好プレーが飛び出し、両校生徒ともに大いに盛り上がりました。



（北斗高等支援学校

教諭 釘田 芳紀）

授業観の転換！ 学びのすそ野を広げて

2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型教育」とし、「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」としています。ここでは、ICTの効果的な活用ときめ細やかな指導体制で、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を一体的に充実することを目指しています。

北斗市では、急激に変化する社会で活躍できるよう、全小中学校と教育委員会が連携・協働しながら教育活動の充実を図ってきました。特に、校長会と教頭会が中心となり、「北斗市学力等向上プロジェクト」を組織し、「北斗市学力等向上研修会」を年2回実施。また、授業改善の方向性を探るべく、先進校への視察研修も2回実施し、教職員への情報提供や共通理解の取組を行ってきたところです。

さて、これからの時代では、自分が経験したことのない場面や状況にあっても、課題を発見し、周りの人と協働しながら解決に向けて判断、そして考えを表現していく力が求められています。

今までは、決められた教室で、黒板とチョーク、ノートと鉛筆で、「一律の目標と内容」「一律のペースで、一斉に」、そして「受動的に」学んでいました。

これからは、場所や学年、時間の制約を受けず、一人一台端末と目の前にある教材を組み合わせ、「一人一人違う目標と課題選択」「多様な内容を自分のペースで」「個別・協働的に」「主体的に」学ぶことが主流となります。

現在、北斗市の研修活動で学んだことを実際の授業で実践してみようと、多くの先生が「新しい授業スタイル」に挑戦しています。保護者の皆さまの中には、授業参観の時に使う教材や教具、授業の進め方、子供たちの様子等、「昔とずいぶん変わった。」と感じた方も多いはずです。この活動を通して、子供たちの自ら学ぶ姿が、将来大人になって就職した後も、主体性を発揮して働き、人生を切り拓く力につながっていくと思います。

今後「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」の下、子供たちに寄り添い、学びのすそ野を広げられるよう「オール北斗」で取り組んでまいります。



(北斗市教頭会 石別中学校 教頭 岩本 宜之)

疲れ目にご用心

「目は口ほどにものを言う」「百聞は一見にしかず」「目は心の鏡」など、目を使ったことわざはたくさんあります。これらのことわざにある目。みなさんどのような目を想像しますか？

北斗市学校保健会が毎年作成している『令和4年度 北斗市児童生徒の健康第17号』によると、視力が1・0未満の割合が小学校で54・5%、中学校になると73・9%となっております。すなわち、小学生の2人に1人、中学校では4人に3人が視力1・0未満ということになります。これだけでも大変なことだと思えます。これだけでも大変なことだと思いますが、全国と比較するともっと深刻な状況だということが浮き彫りになります。

小中学校のいずれも過去最多となり、毎年のように増加傾向となっております。視力1・0未満の児童が全国より10%以上も上回っている北斗市の現状を考えると喫緊の課題と言えます。

	小学校	中学校
全国	37.8	61.2
北斗市	54.5	73.9
差	▲16.7	▲12.7

【視力1.0未満の児童の割合】
(文部科学省 令和4年度学校保健統計調査より)

タブレットを活用して学習を進めていくことが増えている教育環境の中で、目の負担をいかに減らしながら活用していくかが重要となり、そのためには生活習慣の配慮が必要不可欠となります。児童生徒の目を守るために、学校ではもちろんですが、家庭でも次の点に気を付けてタブレットを活用しましょう。

- ①姿勢を正して、画面から目を30cm以上離しましょう。
 - ②30分画面を見たら1回は、20秒以上遠くを見て、目を休めましょう。
 - ③目が乾かないように、よくパチパチとまばたきをしましょう。
 - ④休日は、明るい屋外でからだを動かしましょう。
 - ⑤寝る1時間前からは、画面をみないようにしましょう。
- (日本眼科医会 標語ポスターより)

鬼の目にも涙で大目に見ていると、後で大目玉を食うことに。目に入れても痛くないくらいかわいい目をした子どもたちのために、抜け目なく、目くらまを立てながら守ってあげるのも一置かれる大人の在り方ではないでしょうか。

(北斗市学校保健会 萩野小学校 教頭 長島 幹伸)



北斗市立図書館だより

春です。いつものようにやってくる春ですが、今年は4年ぶりの制限のない4月ですので何か生まれ変わった新しい季節のように感じます。

一方、災害や紛争は続いていますがつらい時や悲しい時でも何かの形で図書館がお役に立てればと思う今日この頃です。

春のイベント情報をお知らせします。

4月の特設コーナー(本館)

●【MOE絵本屋さん大賞2023】

今年も絵本専門店や書店の絵本担当者に選ばれた新刊絵本約30冊をご紹介します。話題の絵本、期待の新人が描いた絵本を手にとってご覧ください。

●【ボランティア・ジュニアサポーターのおすすめ本】

日頃、図書館でボランティアとして活動している中高生たちが「お気に入りの本」を紹介します。

フレッシュな視点で選んだ本や本人手作りのポップにも、ご注目ください！

★特設コーナーが増えました！

図書館では多くの資料を、よりたくさんの方に利用していただけるよう職員一同、アイデアを出しながら展示のテーマを考えています。今後も、季節に沿った

テーマに加えて、さまざまな視点で選んだ展示を楽しんでいただけるよう工夫を重ねていきたいと思えます。どうぞお気軽に図書館へお出かけください。

第6回「図書館まつり」が開催されます

図書館では、こどもの読書週間に合わせて、「図書館まつり」を開催します。会場は、北斗市公民館です。

絵本の読み聞かせやマジックショー、クイズ、アニメの上映会、おすすめの絵本やしつけ絵本の展示、来場者プレゼントなど盛りだくさんの内容で皆さまの来場をお待ちしています。ぜひご参加ください。

参加にあたっては、事前の申し込みが必要です。詳しい申込方法は裏表紙をご覧ください。

●日時：4月27日(土)

午後1時30分～3時

●会場：北斗市公民館 講堂



(北斗市立図書館 司書 荒竹 規子)

第18回北斗市民文化祭

第18回北斗市民文化祭は、令和5年10月28日(土)、29日(日)の2日間で、かなでる、公民館を会場に開催されました。2日間の来場者数は、かなでる会場は633名、公民館会場は340名でした。

今回は両会場で作品展示を行い、市内で活動する文化団体や市内の幼稚園、保育園、小中学校、介護施設の皆さまのご協力のもと、たくさん作品が展示されました。陶芸や絵画、川柳やフラワーアレンジメントなど、丹精を込めて作り上げられた多彩な作品が展示され、来場者の皆さまは興味深く見学していました。



つくしの会(書道)

29日(日)は、かなでる会場で舞台発表が行われ、参加団体は例年より多い17団体となりました。

文化団体協議会の加盟団体では、民謡、舞踊、バンド、フラメンコ、フラダンス、コーラス、ズンバ、吹奏楽など、それぞれが日頃の活動の成果を十分に発揮した内容の濃い発表となりました。

今回は、参加展示団体数の減少による会場の縮小などもあり、大きな盛り上がり

りを見せたとは言えない結果になりましたが、コロナ禍以前に開設していた食堂ブースの復活や、一般団体の参加もあり、昨年度よりも来場者は増加しました。

北斗市文化団体協議会は、これからも市内の文化活動を盛り上げるべく、北斗の杜コンサートや市民文化祭などのイベントを、皆さまが足を運びたいものにしていくために努力してまいります。



加盟団体・団員募集

北斗市文化団体協議会は、上磯町文化団体連絡協議会と大野町文化団体連絡協議会が平成18年に合併して設立し、北斗市民文化祭、北斗の杜コンサートをはじめとするさまざまな芸術文化事業を主催し、加盟する文化団体に発表の場を提供するとともにその活動を支援し、地域に根ざした芸術文化の振興発展を目的としている団体です。

現在は、35団体(旧上磯町20団体、旧大野町15団体)が加盟しておりますので、ご興味がある方は教育委員会社会教育課へお問い合わせください。

(北斗市文化団体協議会

事務局長 小野 育子)

雪も降らず競技は戦い、冬の寒さで勝負しつづる

第9回スノーフェスティバル 冬の大会

開催！冬のスノーフェスティバル！

2月4日（日）、北斗スポーツクラブ（N.O.S.S）の主催により、運動公園自由広場にて「第9回スノーフェスティバル 冬の大会」が開催されました。

2023年の夏は、全国各地で記録的猛暑となり、世界各地でも異常気象が目立った年となりました。そして、北斗市の冬でも例年より気温の高い日が続き、降雪量も少ない年となりました。

会場の積雪も心配でしたが、数日前の降雪によりコンディションも整い、無事に開催することができました。当日は、約80名の参加者が雪中での競技を楽しみました。

スノーフェスティバルの様子

当日は、氷点下とはいえ、垣間見える青空の下、午前10時から開会式が行われました。ラジオ体操で身体をほぐした後、全7種目の競技を行いました。

1種目目の「スノーフラッグ」では、幼児の部10歳、小学生の部15歳、一般の部20歳地点に設置した旗を取り合いました。

た。真剣勝負の中にも、笑顔があふれる競技となりました。

2種目目は、一般の部による「ひっぱり相撲」、3

種目目は小学生の部による「手押し相撲」を行い、大人

も子どもも巧みな駆け引きにより、息を呑む好ゲームが続出しました。

4種目目は、椅子の代わりに設置されたビート板に座る「椅子取りゲーム」を幼児の部と小学生の部に分けて行いました。音楽に耳を澄ませる子どもたちの表情は真剣そのものでした。

5種目目は、参加者全員を2つのグループに分けて「雪中綱引き」を行いました。昨年は、延長戦に突入し、会場を大いに盛り上げたメインイベントです。

今回は、勝敗を決めずに綱引きを2回楽しく行うというルールに変更し、大人



旗を目掛けて一直線！

と子どもが力を合わせて一生懸命に綱を引く姿が印象的でした。

6種目目は、市ふるさとかるたを利用した「ラッキーかるた」を、幼児の部と小学生の部に分けて行いました。今年は、ぶつかり合う危険を回避するため、好きなかかるたを先に選び、読み手が選んだかるたを読み上げたら勝ちというルールにしました。

7種目目は、障害物競争や運命走を融合させた「ドキドキリレー」を全員参加で行いました。たくさん身体を動かし、走り切る子どもたちの姿に逞しさを感じました。

閉会式では、景品を獲得した子どもや大人に温かい拍手が送られ、和やかな雰囲気となりました。参加した子どもたちには参加賞として「ヒップソリ」が配られ、寒さに負けず屋外で元気に遊んで欲しいとの願いが込められたプレゼントでした。

今回も、素晴らしい天候の中で怪我や事故もなく楽しいイベントを終えられたことを運営スタッフ一同感謝しております。また、恒

例になった豚汁の提供は、冷え



子どもに負けられない真剣勝負

切った体に染み渡り、大好評でした。

誰でも参加できる事業を目指して

・アダプテッドスポーツとは？

アダプテッドスポーツとは、一人一人の発達状況や身体の状態に「適応（あてあ）」させた「スポーツのことです。

障がい者や高齢者なども参加できるように既存のスポーツを修正したもの、新たに創ったものを指します。ルールや道具を工夫して誰もが平等にプレーできるようにしたスポーツ全般を指します。

・パラスポーツとの違い

パラスポーツとは、いわゆる障がい者スポーツのことを指し、車いすバスケットボール、シッティングバレー、ゴールボールなど、ルールなどが確立されているスポーツ種目のことを指します。

アダプテッドスポーツとは、特定の種目を指すのではなく、身体の状態や年齢など、『スポーツをそれぞれの人に合わせる』という考え方で、できないことを考えるのではなく、『どうすればいいのかを考えること』が大切です。

アダプテッドスポーツの導入により、多様な人々が楽しめるスポーツイベントの造成も今後の課題として取り組んでまいります。

（北斗市スポーツ推進委員

中島 僚太）

ほくと遺跡ものがたり

遺跡が語る北斗の歴史

第12回

はるかむかし、旧石器時代・縄文時代から現代に至るまで、一万有余年の間にこの北斗の地で営まれ続けた人類の歩み―当コーナーは、こうした北斗の歴史について、「遺跡」に焦点をあてて紹介します。今回は第11回に引き続き、箱館戦争にまつわる遺跡や記録について触れていきたいと思えます。今回は大野口の戦い後、箱館戦争戊辰戦線終結から己巳戦線開戦前夜までのお話、その第1回です。

前回お話ししたとおり、箱館戦争は「蝦夷地への移住・開拓」という朝廷への嘆願を求める旧幕府軍使者に対する箱館府・新政府側諸藩隊による夜襲（峠下の戦い）により勃発し、やむなく交戦状態に陥った旧幕府軍は、統率ままならない新政府側諸藩隊を一ノ渡村〜大野村村境で鎧袖一触に撃破します。これが、箱館戦争における最初の大規模戦闘である大野口の戦い（通称・意富比神社の戦い）でした。

大野口の戦いと同日の明治元（1868）年10月24日、二方面進撃の一方として七重村（※1）方面へ兵を進めた人見勝太郎・佐久間悳二らの率いる部隊約250名が同村と大川村との村界で箱館府兵・大野藩・松前藩・弘前藩・福山藩

からなる総勢約500名の兵と交戦。大野より向かった伝習隊の援兵も受け同日中に撃破し（七重口の戦い）、25日には大野口・七重口の両方面軍に加え鷲ノ木に残っていた松岡四郎次郎率いる一聯隊（約200名も七重に合流し、新政府側本拠である五稜郭進撃の準備を整えます。同じ頃、函館平野側に進んだ大鳥らと別方向、海岸沿いに部隊を進めていた土方歳三らも川汲峠に陣した新政府部隊を退け、峠を抜き上湯の川に陣を敷きます。この連戦連敗の状況を受け、箱館府知事・清水谷公考は箱館府兵と、この時同城に退避していた福山藩・松前藩兵とともに24日に五稜郭を退去し箱館港より青森へ脱出。その他の藩の士卒もこれに従って25〜27日にかけて青森へ脱出。以降、新政府は公考を総督とする「新政府軍」を再編成すべく全国から青森に精鋭を集結させ、翌年の反攻のための準備を着々と整えていくこととなります。

※1 現在の七飯町役場周辺。明治12年から一字ずつとり「七飯」となりました。こうして10月26日、旧幕府軍の士卒は空城となった五稜郭に入城します（※2）。なお、このとき五稜郭そばに建てられていた役宅には10数名の新政府側負

傷者がのこされていましたが、旧幕府軍は彼らを函館病院（1860年に創立された北海道初の病院）へと移し、治療・回復の後は青森へと送り出しています。

※2 当時の五稜郭は防衛のための装備も設備も不十分ない。政庁府に過ぎませんでした。大鳥圭介は入城時に当時の状況を「五稜郭の築造未だ全備せず、有事の際には防禦の用に供しがたき」と評し、翌年3月までの間に莫大な労力を費やして防衛設備の増築工事を行っています。

成り行き上こうして函館平野部の制圧に至ったものの、あくまで榎本武揚ら旧幕府軍の目的は（天皇親政による）朝廷公認の元での蝦夷地移住・開拓であったことは第10回・11回でお話ししたとおりです。そのため松前藩とも積極的に敵対する意思があったわけではなく、先の戦中に降伏した松前藩士・桜井恕三郎に「行きがかり上戦闘に陥ったものの貴藩に殊更に恨みはなく、この上は力を合わせて蝦夷地開拓を行いたく願う」旨の書状を託し松前へ使者として帰します。しかし、松前藩はこれを拒絶するのみならず、あまつさえ桜井を処刑してしまいます。

こうなってしまうのは現状の憂いを断つためには兵を動かすほかになく、10月27日に土方歳三を司令官とし、彰義隊・陸

軍隊・額兵隊・衝鋒隊からなる部隊約800人が海岸沿いに松前方面へと進撃。海軍の援護と併せ、知内村・一ノ渡（現・福島町千軒）・福島・吉岡と松前藩の抵抗を退け、11月5日には松前藩の日本拠・松前城（※3）を攻撃します。この時、守備兵は100名弱でした。

（※3）この頃松前藩は新築間もない厚沢部の館城に本拠を移しており、藩主・徳広は緒戦が始まった10月28日にはすでに新城へと逃れていました。

松前藩は、この箱館戦争開戦直前の8月に派閥争いを起因とするクーデターが勃発しており、これにより実権を握ったメンバーが拠ったのは当時戦闘の前提・常識でもあった洋式軍制ではなく、旧来の和式武術を主とするメンバーでした（このためか、大政奉還後にもかかわらず剣術・槍術などの使い手からなる鎗劔隊を新たに編成し藩兵の主力に据えたり、洋式軍制に係る藩校の廃校や知洋派に与する人材の粛清を行ったり、松前周辺の海防を担った沿岸砲台の大部分を廃止するなど、時代に逆行した施策が彼らのクーデター後に多く目立ちます）。

こうした藩状の影響もあってか、洋式軍制に則った軽装に洋式銃といった旧幕府軍・土方隊のいでたちに対し松前藩兵

は甲冑に身を固め刀・槍・薙刀に火縄銃を手にしつづつほら貝を鳴らしながら出陣していた…という話が当時を知る古老の座談会に記録として残っており、必然松前藩兵は太刀打ちできず敗れ、城中・城外に火を放ちつつ退却します。

松前藩兵を退けた土方隊は9日まで滞陣し体制を整えます。この最中の8日、松前藩主徳広の逃れた館城のある厚沢部方面へ向けて、松岡四郎次郎率いる一聯隊200名が二股口へ江差へ抜ける間道を進撃。15日には50名の兵が守る館城を攻略します（この時の松前藩軍事方であつた僧・三上超順の奮戦ぶりは敵味方ともに語り草となっています）。

同じ頃、土方隊も江差へ向けて海岸線沿いに北進、大滝での戦闘を経て13日には江差に到達する見込みでした…が、この時旧幕府軍を思わぬ悲劇が襲います。

陸軍による松前藩制圧がほぼ落着きつつあつた11月11日、榎本武揚はなぜか「陸軍応援のため」海軍戦力の主力艦・開陽で箱館から出航、一路江差へと向かいます。当時冬ただなかの日本海は大いに荒れており、松前城攻略戦に参加した回天・蟠竜の2艦は戦後の係留ままならず箱館へときびすを返した程でした。

開陽が江差へと到着した12日も天候は大いに荒れていました。元来江差では小型の和船であれば弁天島の陰で風雨雪を

しのぐことができましたが、大型船・開陽ではそれもままならず。やむを得ず外洋に錨を2つ下ろすもその甲斐なく船は走錨を始め、蒸気機関による操船脱出を図るも間に合わず座礁、結果大破・沈没へと至ってしまったのでした（※5）。

（※5）なお、この時開陽沈没を見て土方が悔しがって叩いた「歳三嘆きの松」という逸話がありますが、これは郷土史家の創作であることがわかっています。

さらにはこの開陽を救援しようと回天・神速の2艦が向かいますがこの波濤では何もできず、神速にいたっては波風に飲まれ開陽に続き沈没してしまいます。当時軍艦の機動力と艦砲性能からなる制海権の奪取は、戦局の鍵を握る大きな存在でした。これを不慮の事故で、しかも主力を含む2艦を同時に失つたことは、翌年の箱館戦争に己戦線において旧幕府軍に大きな影を落とすこととなります。

ともあれ、陸戦においては松前藩の死者数83人（死42傷41）に対し23人（死3傷20）と圧倒し、11月19日には徳広が蝦夷地を脱出。旧幕府軍は渡島制圧を成し遂げます。が、これは翌年へと続く「時代が生まれ変わるための最後の戦い」の序章に過ぎなかったのです。

（郷土資料館 時田 太郎）

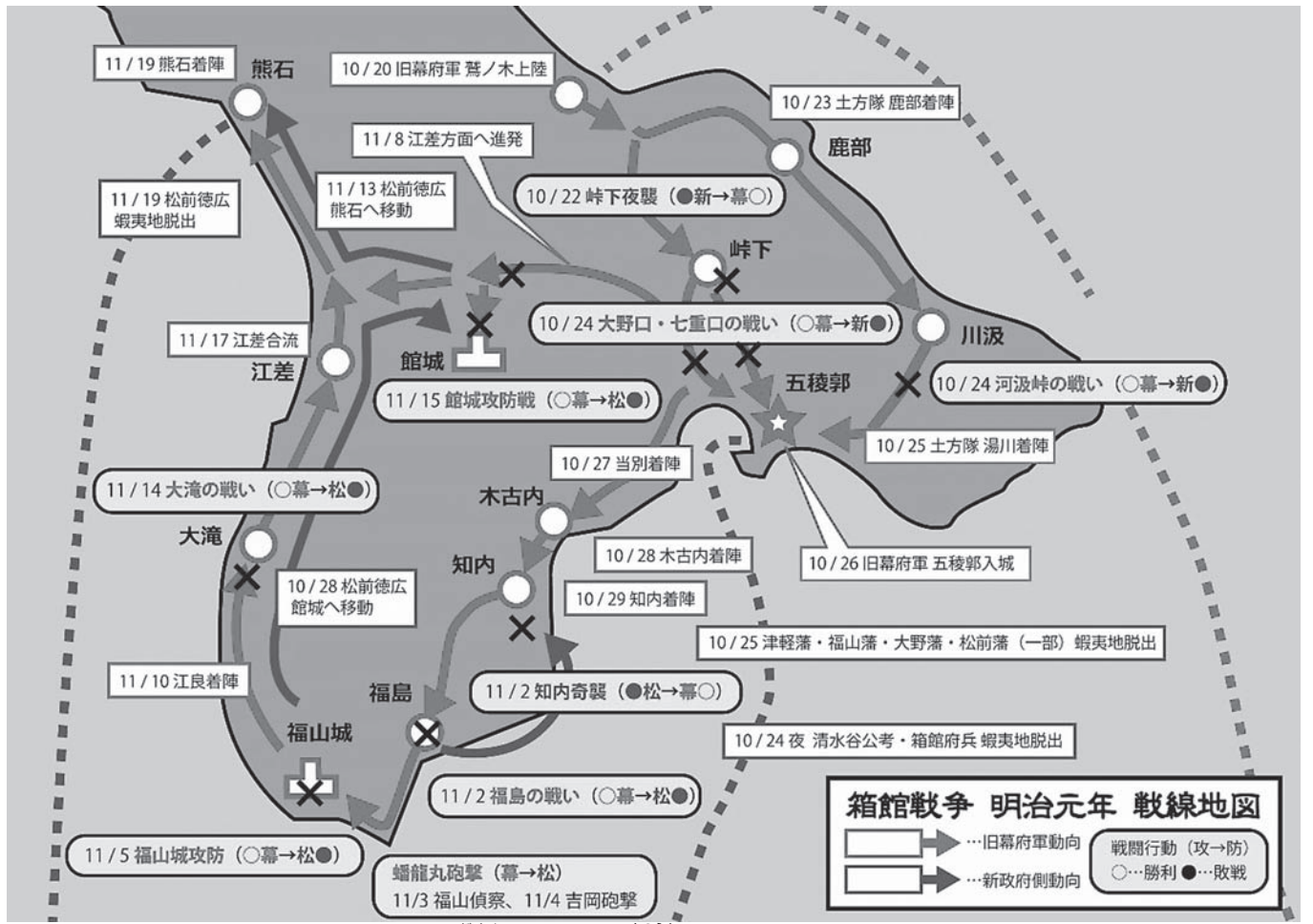


図. 箱館戦争戊辰（明治元年戊辰）戦線 戦線地図（時田作成）

としょかん 図書館まつり

と き 4月27日(土) 13:30~15:00
と ころ 北斗市公民館 講堂

【内容】
 🍀 絵本のおよみ聞かせ 🍀 クイズ 🍀 マジックショー
 🍀 アニメ上映会
 ①『しまじろう』 ②『さんねんないきもの事典』




参加には次の方法で
事前申し込みが必要です。

- ・インターネットで申し込む 
- ・図書館に電話で申し込む

申込の期限は、**4月17日(木)**です。
 応募者多数の場合は抽選になります。
 抽選結果は4月20日(土)頃までに
 ハガキでお知らせします。
 お問い合わせは、北斗市立図書館
 (電話 74-2071) へ！

ご来場のお友達
全員にプレゼントを
お渡しします♪

主催：北斗市教育委員会

荒牧陽子 × 松浦航大

最強!! 歌まねライブ in 北斗

2024年5月13日(月) 開場 17:45 開演 18:30
北斗市総合文化センターかなで〜大ホール

全席指定 4,800円 (税別) 5,280円 (税込)

E-チケット 3月10日(水) AM10:00〜
D-チケット 3月12日(金) AM10:00〜

【開演】18:30 開演18:30
【会場】北斗市総合文化センター かなで〜大ホール
〒740-0202 北斗市中野通2丁目13番1号 (道徳ビル3階) (徒歩約10分)

【お問い合わせ】 北斗市かなで〜協会 Tel.0138-74-2000 Fax.0138-74-2074
Eメール: kcn@city.hokuto.lg.jp

主催：北斗市かなで〜協会 共催：北海道新聞放送文化 製作協力：株式会社トップレイン7札幌

かなで〜協会の会員になりませんか？

年会費：個人会員3,000円 法人会員 1口5,000円
 申込方法：総合文化センター窓口でお申し込みください。

○入会特典その1
 かなで〜協会の主催・共催事業のチケット1枚につき1枚使える1,000円引きの割引券を1口につき2枚発行します。
 (有効期限は発行年の4月1日から翌々年の3月31日までの2年間。1,000円以下のチケットは適用外となります。)

○入会特典その2
 かなで〜協会会員にチケットの先行販売を行います。

※詳細は、かなで〜協会事務局（総合文化センター内）☎74-2000までお問合せください。

演奏会

陸上自衛隊第11音楽隊

5/18(土)

【開場】13:00 【開演】14:00
【会場】北斗市総合文化センター
かなで〜大ホール
北斗市中野通2丁目13番1号 (道徳ビル3階) (徒歩約10分)

入場無料

主催：北斗市かなで〜協会 共催：北斗市・北斗市教育委員会 協力：陸上自衛隊第11旅団

令和5年度教育広報編集委員会

◎発行責任者	北斗市教育委員会	教育長	永田 裕	
◎編集長	北斗市校長会	校長	星 正樹 (石別中学校)	
◎編集委員	北斗市教頭会	教頭	岩 本 宜 織 (石別中学校)	
	北斗市内教職員	養護教諭	今 香 子 (市渡小学校)	
		教諭	塚 原 智 子 (市渡小学校)	
		教諭	生 田 遼 河 (久根別小学校)	
		教諭	會 津 聡 子 (茂辺地中学校)	
		教諭	吉 澤 優 子 (上磯中学校)	
		教諭	釘 田 芳 紀 (北斗高等支援学校)	
	北斗市学校保健会	養護教諭	大 塚 七 重 (萩野小学校)	
	スポーツ推進委員会	委員	長 安 達 孝 義	
	北斗市文化団体協議会	事務局長	小 野 育 子	

◎事務局：北斗市教育委員会社会教育課

訂正とお詫び

1月4日発行の教育広報きらめきNo.71の10ページ「三木露風とトラピスト」に誤りがありました。
 三木露風の生年月日について、「明治22年(1899年)」と掲載しましたが、正しくは「明治22年(1889年)」となります。
 訂正するとともにお詫び申し上げます。